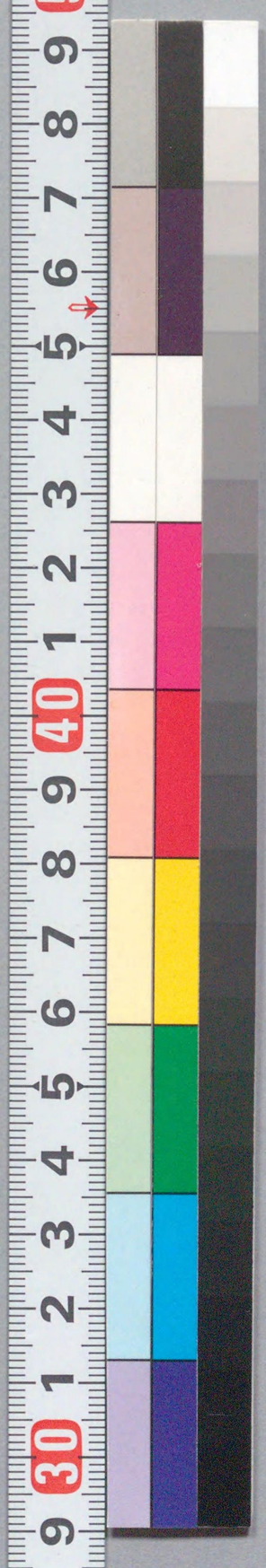


国立国会図書館　　通人の寐言 3巻 208-11

ガラス使用

208
11

国立国会図書館　　通人の寐言 3巻 208-11

ガラス使用

# 通人の寐言序

大通夢に無理なる事が夢に無理なるが通が夢に不理となるかと性子が虚言
ようつまんせん所の月桃栗山人
机下に拝ぶに一ツの小さろ紙
取出しに侫り序を出べ
とあり辞されば先生志ろ
こ曰く初心うち氣なり
仁義禮智信乃道我ゆへ
多る書物に向らず高がさい

国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11

ガラス使用

つハ西ないといへる斗りの
むさしあふみの此茶湯
よもならぬ物之ま商世辛
毎ハ出る酒花寺と鐘の
見世ふ山どなし時も言葉ふ
古猪牙船ふ積ざるふり川
濁田河の流も理とあらず
家ハ大庭と思ふがふ庭なく
我れハ自賛をあげ然といふ
世りが厘律なり自讃を
ならるのなれども日本一でん

誠ぬ萬世とじんぶん
ふひとりくたれもかまハぬ
と盤花の地のかりがたき
あり生す先ふいまをがって
我らん生天亜人の寐言
とありま聖人ふ夢なし
通人ハ全なしといふ実誅
初會の床の咄ふさどぞよふ
引深がかハりてそれがわるい
うちまなんとしろうとの
言ばかり是寐言ちぢめ

あして夢にえんし事とは
深くなり事は寝言なる
爲し諸々の色黒皆是
にゆなりしと言あづらち地
の風にとりくとなかに半
を知るとすべて客也
言葉とも世うぼゆらんごふ
て馬鹿我へケレンツウといへば
かしぐことてあほうそろま
といふ江戸にてひやうたれ
と言しも今はうすどん也



ひるさの河沽に呼はらし
おかれは石川から雑波の
大蟲をいせひの花扇すい
てんぢやうとうせられ深川
は梅本尾むのあづまを
ついぞなひめにはせてやつ
事を評判はなりと立氣地
のもてし熱東都のいさゆ
ならずや豆三のぬいらんより
さ右のあるユまでそれくの
五人の事はかけ記義なり

国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11
ガラス使用

さんたん手管の秘事は数の眉毛は巣をとひ出蝎牛の角のゆらそひも毛唐人の大きなうそ八百八町の歴人様をゆりさむせうふこうこむじと美の外の化者の所をつくじしの筆を取る漬なまんぽくと書ゆるんぬ

柿發齊門人
柚九念奈里嘉根述

# 通人の寐言

上之巻

▲通人古文が宅にて色里談話
附り茂に品川情出張之事

山の手客一味之事

大尽奢て歴々の丸堂以来社を連て仲廓に知りむく、蒙宗に秀る河東節あり、菊に芳といふあり、徳牙船をうかべて隅田川をとる、向後にまゝなるゆゑ者をつれ、ちかくなつて長方をもつす、どうらくさはまつて僧侶なし。別山いくだくのさきぞだらもいふ武常の秋風のしぶとゆとげてゆゑぬのうらにいざしきすむの内の戸の中もしゆふ古文といふ歴人あり、猶ぶ事も利を乗さて人もしつこうさくな町人一ぐらす



国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11
ガラス使用

国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11

ガラス使用

国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11

ガラス使用

といつをどんとぶちころし。手ゆるに。
そこあすもいつぐけ。ゆるこしぐりり
かつれぐるこ。あつちから今をぐして。
まから内ぢうの女らにこころゆすく
あつて。いつぞいふ志ゆれこころだしこ。諸
事あそびハ宮ノ岩のことサと。いへぞ
だから。阿の房宮といふいしやすこ
いて。イヤよろやよりハ那川ハまこうく
べついこ。まあむすこうぶハ緑日驪山
ふりこつけて行。西ハ打御殿山ハ老
こうなる。溶くとして流く大海へ。
五歩ハ一横十歩ハ一間扉下三階
をめぐつてゐ無しにいふる。女らのみこ
さる兎形造吉原ハをとうす。今ハ
那ちこふつぐく今里ハあいさいふそだ

ちらイヤ表やぐらハされいぐこ。まづ行け
ぐいこ。老人いつてもすぐるとぶこ。おふう
ちよんとしこどんぶり。一ト切りぐらい
かるれてハあふまい。せんどよんぐゆつハ
さそんのさいこやけ。宮ハどもいろこら
つい足をつけ。おめこあすのだんをねこ。
といふから。さそもねこさきハるのといろ
こらいうまゐ。ろちがあすのだんハ高
楽といつて。背の内れをむいてあくから。
とゐりふさまゐ。とめこの名といつてきさ
らんよくあつこといつて。出ふこといろ
もものある女らごのと。こいものゆゑもん
ぶゆうづゆうのひいき。イヤまよりハ
仲丁のどもしのと。ちあし出すと
いそうろうのうちに口源といふ。

国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11
ガラス使用

国立国会図書館　　通人の寐言 3巻 208-11

ガラス使用

国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11

ガラス使用

国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11

ガラス使用

国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11

ガラス使用

うさ九曜に一ツハ指わんめんくお者也
しあるをれくふうらぬこのおそこさ也
まを志られたり。去程にまれもくと
ちせあつまると本陣まちうくかけ
きたるハ。宮谷の宿根堀内とあのり
さ内ふのおけハどいかくれどく。こまよ
六百壹分。志んぞうつけるまいそ
りの天をかしらのうふとをきゑ。
つきとのふるにきんとしらへのうこ
をあつけ。ゆとくにもまれ。ある様しや
山の手。窓志ろ市ケ谷とあのり。小川
の鎧に身をゆつし。赤城ゆうりの方
をたきこちんたり。にすゑ六きりくと
しいそきのわせ久つてすこしくる
三田のどうぶう赤羽根のつまもん

ぜん坊神明坊西蓮の情明
一だれ法師。すべて一ツ山のきゆく
増原我もくとよりあつまる
でく其れかぜきちうけたり

通人寐言上巻終

国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11
ガラス使用

# 通人の寐言　中之巻

▲深川情生立之事

附り法の様者ちやくとう代事

沙州のちうなとん可造合

小国あんないこと事

日本悦まで却しおれ事

ゆくましものといふまふろこの事
よりふる門せい呉後てんなう表の
とういんなんてこんす事をせひろと
よくなり。家こんこかさのこそすこ
あてゞんさんかけねないませのたちまた
志めけひこをなつけし十代の君この
まきものかひこんでさうりをたらつて
ころくるありさなぴこくゝ志らすなう
てうふまりしてんもせうらんあれ。

国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11

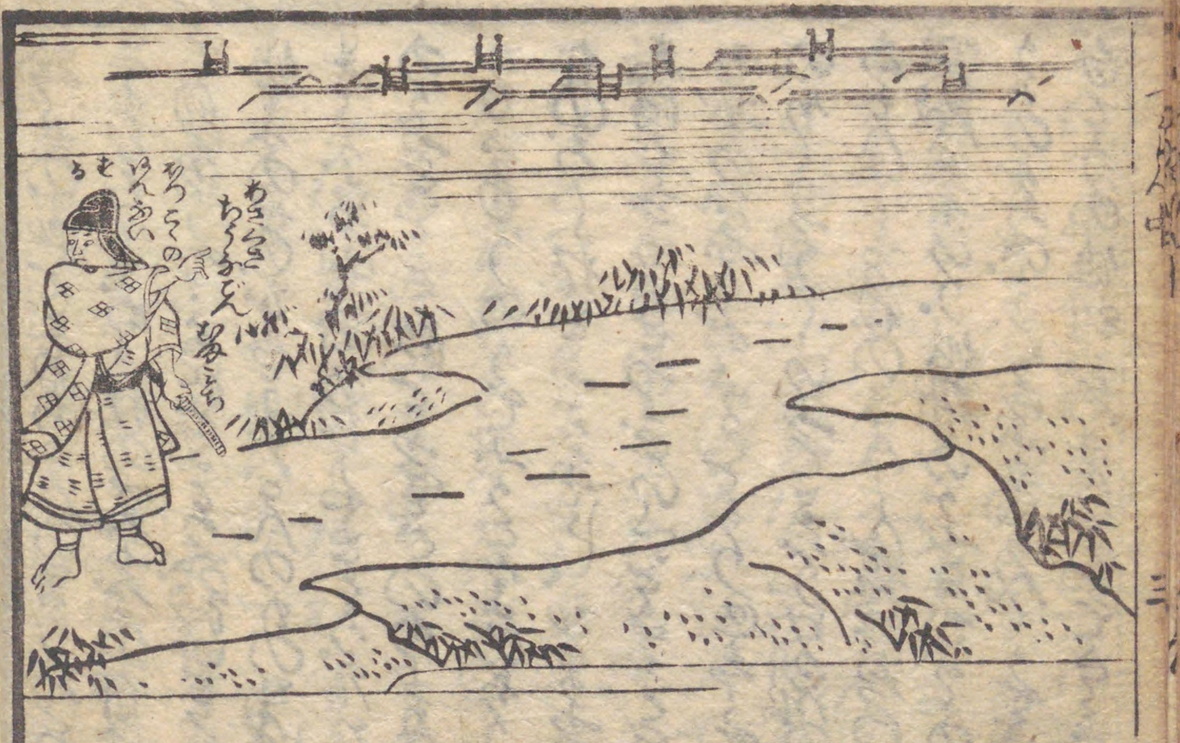
ガラス使用

国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11

ガラス使用

国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11

ガラス使用



国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11

ガラス使用

国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11

ガラス使用

つゞけやくといふまゝにせんぢん日本
づくしにさしかゝるとてにぶしのかりぬ
しやに和まんぢう三十六代のうちいん
安物行立人折柘といふものなり。とん
かんぢんのひとまき　いかしく。そこ
きりいろの下帯に志め。行光が去
たる淳兎の下としうしろ人者僕
といふしぢゆんそくにくろぬりとけ
たるかりやうやきせ田さいたる取たる
の拝のそやいちかりまたうつて付
ようとひそうの小手すねあて。志つ
かるのちらかき。三ツ折しにかぶとの
かうゆくいくびにさまし。でろぺんかけ
てうへひすのをとしたるにかりしハ
かさ申とそ志られかる。まつた志ぶり

拝那とさゞめ。あるいは三ツ身えんまゝ
じ身。てうぜんまでもかせひとといけ
ところ和に武百誘どかり。黄金これどう
かつ客まんよきゆかふがねらにぢん
とつて。こがひにふとしろさてりあひすで
にひれんとくるごてなり

▲小國情ちせ集ん事
附り井伊さぜんのうミ一ぜんに
出立く事
客陳ぜい楯く事

かくてわたくがこゝにこれを実物を
にもちがきれハさうよふのみ使
くのをとしくがとく。すいるをそ
といふまゝに一ぜんにさそひくるハいく



国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11
ガラス使用

国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11

ガラス使用

そころの母衣をかけ、かぶとの緒にどんぶりのふざるを、又ト切といふふさちやまんの合口まいのさうづれさしかざし、佩名かいてるもしがこのもて、しかこをいくし大火鉢へしつゐとまんのあべをかけ、あらむまくとぞくつてりける。是をとるてあたりの親やより、これ也とらじと女ひやめんくかんさしぬきもちて、もち八様のもちまれハげびぞうくさりと志られけり

通人寐言中巻終

# 通人の寐言　下之巻

▲大盃持丸仲の町に出張之事

附り　石初金吉郎　[illegible]武教之事

ぶんぎよの国の住人おつまみ丸

大盃いかん元粹之事

ふくこてうまどんのぞつかより

百目の鉄砲をもなす事

うつせんすでに初ル事

なも大盃の物入にハ、あつぢのゆきのねぐられに、ぴぢりかんの三ッぶとん、ぐぞの初ハひらきれすもどの内きせなかかさ言ふつくもちあがりかんしゆくてんまひしのとういん、ごら大じんのち丸とまのりかいしゆんこつから、百万あぶんぐんこうともこちまちまひつぶすへきこと云ふ。

国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11

ガラス使用

ないぞてすねあてをさむしふあり。
さてみがこめの六ヶ月とは、もちまねは
やびしのひの法をさりもろ母むしやまら
じとれ身をうこむる六ヶ月とさて大ね
の六ヶ月とはよろいこちさいもいむち図
彼の六ヶ月はまくもこせうざこそ見
な敵まこ要害の六ヶ月とは、ひんぐい
さりも未到せいろうもろほうこけ
こばあるいはいぞく持ぞそかいぞそあめ
こいまつまとさしものもこぶるし
大ヶ月小ヶ月ばめんもろぐろむま
よろひさてこ又かぶこの名ところそん
ぐうあげぶ八まんざてへんまつかう
ひんくまぶこもちつけのいこ四天の
ぶやうつのりとまびさしふさがへし



もろぶりとろもいころがしら志ころ世も
つらうちかぶとそのうちかぶとを人ふ
見られな武士はこぐ拘いふともそぐ
なれされは家も

人は城人は石垣人は堀
なさけはこうこあこは大敵

つまふんふやりふべし。此こいしやうれ甲
をば一トかしらとせうずべし。拝むしやの
かぶこは一ツ二ツとかふすべし。てきこの
かぶこは一トもまといふべし。味うこのまく
をばうつといふてきこのまくやひくこと云
さやをもなまてつるぎをば一トこしと
やりまべし。さて又矢やこのとばよい。
人ふむろて矢をもなこば。ぶやうづん
ぐさいとをすべし。けぐものまばずば

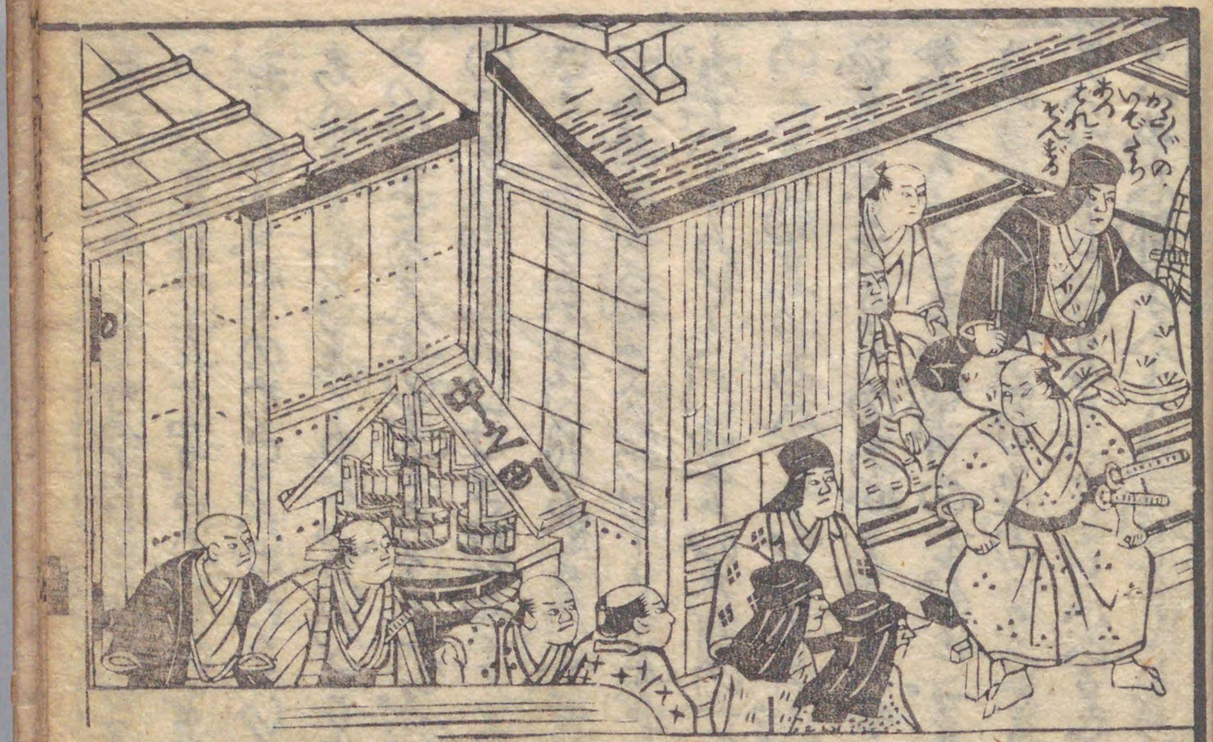
国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11
ガラス使用

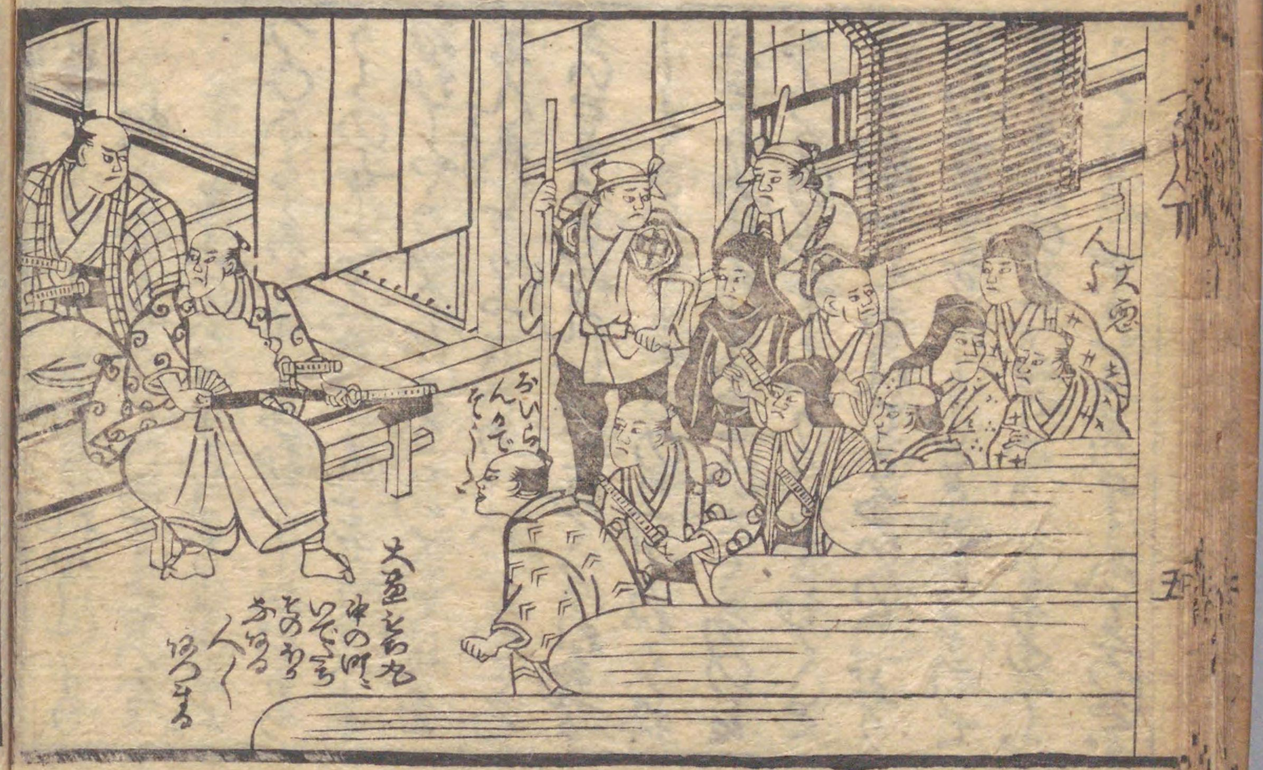
国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11

ガラス使用

国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11

ガラス使用





国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11

ガラス使用

あれさうは歳りもつくれと居をすへし。ととむハすんとやうきりむすひをれ書してやる。雪のあさにハどけうとゐるしんやうかんすゑくもとふめつくことふめつくことなんなのぞこきがしれず。のとなれ山となれ一寸さきハやこくもさまきさ。春ふ年り月夜あふ西田といふ嫌に青樓とあつけしうるゆぐら遊人まれて大門にまゐ戸町の一二の木戸。物ゑのしんそうかむろの伏勢付ケ。ととまりのあやしきを矢ぬきやつとりうとまハ田甫のたねをし。まきうのとれハ宮のぬけ屋なるこそうせいつうしんとなんるふうこちハ六分をうゑめ大廓にへく彩造とりとあし

ところみつけ。そうりしとともつて居志きへやりちの事主とくんてふとひとくんとそれとも出しくるやすく若せずうろうまとのりんさん斗まで主ゑ出びとをふすまゑ弟のうんせふ切てとをもうんとおもこやこととてとひろけるとつるのつそさぬどしぐちうまくよくの使といへと廊中まゑ欲のまゑ(さいふ)あるひハ三味せんうゑ降りちりうらつぐこよせてひとのうちよふ者ゆれバほうろあゝねとゆゑとなり。ぞうかな大しんまうさんなし群ちうふさひとをりちとろうしあとこそふ思ってけひつまくふのせられ敬ちうふ仲の丁まで屋をうん矢せひふ

国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11
ガラス使用

国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11

ガラス使用

国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11

ガラス使用

あつて志るへしおをもちうしんつつ
まつらんとのゆしすそそうけいです
とこふとんごけいをく所くまかすとそ
のりいつぶけのむつい甲ふかうか角ゆお
立ぬんてふのちしいかのおかくきりと
いふ縫ひけさけまつしくうふ間一俗り
すこ付るるきをきがんをとりこそであ
らるれしとていひられ志ぞいゆやうり
そのうへふねんらいのそ這へいりうれ
ついふ女房ふうへきたり志すくものあり
よりこれゆるん一首の狂歌をよみこ
ゆるる

粧ひずきかつてゆつたり二ツそん
うかうしらふとんさいたく
もや大のんふゆしよせて志つされふ

さひに三味せんさうに記こそせめられば
小さく方まも喜の字のゆ、づるかめ
の春のもの、又ハ山口作村のせいろう
くつき雪うのせめなるこ、ぞりしびてん
ふうやかせ、くるんとうひちやのおふい
あれば、ゆやもあれどもつふハそのあてら
をうりたるひく、さんざん大さちあつ
ひかくれば、手ふたつどうくもあり
る、わとより紋日のそあへをこさす
丑鄙江戸とういたる大ちこゆしこそ
とせあつまりしそのありさる稲麻
ちくいこうそつき赤ちらこれの一ぞく
志つたりすり円とうしん居同そゆり
ゆのだりものどもこれゆとうしと大門
むしさこうをせんとうをひかけおと



国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11
ガラス使用

ちらせどうこゝだなのは茶也へこゝらは
まもなければおいたひつゝふそ
なる泥はたらふくの川となつてうれ
きのすそを流し岩は山をわらせい
ちらきの之男手のかけこいうなひ
すくあるやそうほうかつせんなる人
まるところふまつらふさそふてるりせふ
乃中奴衣福神すころくと呼こゞ
ゆめにてありしよかとてものとふのち
へとうたいものしやと思ふうちかとうう
年始の御祝儀申入ます

天明二年
寅ノ正月

桃栗山人
柿發齋著

通人の寝言跋

萌芽子和發ニ尾推人間
十事九頼之也言の禪
語のんもむづなるべ桃栗
山人通人の寝言とあの
書を扁んで忌橋に跋を
ちの漢でこれを見るに甚
趣味實くとして意氣乾
こんえん土地の穴四象乾坤
備りて妙なるべ奇なるべ
言葉に速るも恐るべし

国立国会図書館　通人の寝言 3巻 208-11
ガラス使用

故に予辞して曰おき称へ
なとにゆゑ人ゆゑつちが
書物がどふして一所にあり
くるゝ物ごとはゆゑとの
そこに一つのとりへといふは
世話に隣の甚多とゆゑ
ちこ氣がかるもの面ゆ
くさ人ではゆゑ淋しいと枝
里に連を誘ひ淫る日シテ
ワキあれば美家にあらう
ゆり製情に利造ありて

姉女らは五章を見なしい
虚中は二夷實中の虚
を書ゆゑ遠を変のゆゑして
窓を呼ばしつけて出ち
ゐる凡たしなに清くこゝ日け
とはつまる所の五章なしん
色里はなが先はいふもさん
小さくの多月は素見の
人と思り灯籠にきひ南
国の廿六夜は天地の水がら
くり東国の山冥は藝婦の

国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11
ガラス使用

208
11



産籠人ゐ等事西國ハ
馬驛路の中に養き玉の
墓あり佛具屋ハ志ぐく
を賞女衛ハ極楽とあづけ
て吉原の女ゝりハかゝを
つゝふらの中これ川ぐるんで
ゐる時ハ言ひもひしハ下戸
上戸もつゝる所ハ女のうち
由見くうたゞ事なかれと
いとぎる訳をこれを得れ

蓮葉山人吻橋著

国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11
ガラス使用

208
11

国立国会図書館　通人の寐言 3巻 208-11

ガラス使用

国立国会図書館　　通人の寐言 3巻 208-11

ガラス使用